

文芸コーナー

菊水短歌会

七十年礼も言わずに酷使した
わが膝ついに悲鳴あげたり
夫逝きて一年の経ち淋しさを
短歌作りて元氣もらいぬ
賑やかに鐘や太鼓の川開き
舟つらなりて急流下り
大正以来の喜怒哀楽や出来事は
年輪の中にきざまれていむ
山茶花のこぼれる庭の日だまりに
心ゆるして猫うとうとと
一日の時間巻きつつ立つ木々に
今静かにも風が目を凝らす

池田 恭子
坂本やすみ
河野 洋子
阪野 章子
石山 幸子
東 左千子

かなしき原俳句会

おお空に鳥の一声春たちぬ
雪国の空いま暫しこけし買ふ
残雪の月山染めて落つ夕日
春めきて憂きことひとつ薄れゆく
二分咲きの梅の香雨に溶けゆきぬ

克代
謙三
貞子
しん子
淑乃

待春の疾風一夜を駆け抜けし
本願寺出づれば古都に春の虹
針供養せし友垣は今いかに
耳朶を打つ瀬音幽き春日差
感謝していただく元氣寒卵

康子
弘子
淑一
誠一
良一

菊水俳句会

きのふ雨けふ晴れ春の一步ずつ
白梅の匂ふ漆喰蔵の町
残雪や高層ビルのクラス会
梅の花香りかぎたく枝を折る
幾山河ありて傘寿や雛を折る
野仏の顔のほころぶ春隣

宮中ミスエ
宮中 康雄
永田 紘彦
原 かよ子
池田 松子
中山ミサト

肥後狂句

おひなさま 孫のためにと はり込ます
おひなさま 栄華の跡も垣間見え
おひなさま 孫の節句の主役たい
がまだしもん 鎌つねに光つとる
がまだしもん ねとる暇どまなかごたる
がまだしもん あの世に銭はいらんばい
何とかなる マイナス思考捨てなつせ
何とかなる 返してしもうた免許証
何とかなる くよくよせずに前向きに

庄山 道草
高木せいや
池田 茜
井上りんどう
福永すみれ
二瀬 桔梗
瀬上 歌子
石原かわせみ
後藤 撫子

人権の窓 23



地域人権教育指導員 緒方正雄

中央公民館 86・2022

「物事の本質が見えているか」

隔週の火曜日、私の教え子が、中央公民館にパンの販売に来てくれます。彼との出会いは、平成十七年、彼が小学五年生の時でした。彼はとても人懐っこくて、周りの人をいつも和ませてくれ、家族の皆さんから愛されていました。彼は高校を卒業後、「銀河ステーション」で、パンの巡回販売をしています。

ところで、熊本日日新聞の「読者のひろば」で、あるお母さんの記事に出会いました。

☆ ☆ ☆

三月二十一日は世界ダウン症の日です。私は四十歳で、三男を出産しました。三男はダウン症を持って生まれてきました。三男を生んで、数時間後には、彼がダウン症であろうことを知らされました。夜も眠れず泣き続け、「なぜ神様は私に」と、自らの運命を憂いました。この出産を全てリセットしたいという思いで頭は一杯でした。「この子をかわいいと思えるのだろうか。これから私や家族に何が起るのだろうか」と、不安に押しつぶされそうでした。「ダウン症の子は、天使だって聞くよ」という人もありましたが、そんなのは、きれいごとで嘘っぱちの慰めだと思いました。

あれから、六年が過ぎました。わが家には、六歳のいたずら天使がいます。私は今、この子のそばにいて、どれだけのことを考え学び、与えられ、幸せを感じているでしょう。三男は、いわゆる「ふつうの子」としては、

生まれてきませんでした。

でも、「ふつう」とは何でしょう。今の私には、「ふつう」は、実体的ないおかげであるように感じられます。そして私もそうです。人は、そのおかげにしばしば苦しめられます。「ふつう」であることに執着するため、物事の本質が見えなくなってしまうのです。金子みすゞの有名な詩の言葉、「みんなちがってみんないい」。世の理想として、いろんな所で目や耳にします。でも現実の社会では、その「違い」にも、暗黙の範囲が設けられているような気がします。

三男の出産をリセットしたいと思った私。流産の可能性が大きいとされる遺伝子異常を抱えながらも三男は、私のおなかにしがみついて、家族の元にやって来ました。そのことは、私にとって最大級に幸運であったと今、確信します。

三男は今、今日もけらけらと幸せそうに笑います。キラキラと命を輝かせ、生きています。その命に、心から感謝と称賛を贈りたいと思います。熊日新聞 読者のひろばより

☆ ☆ ☆

このお母さんの思いを知り、私の教え子のお母さん、お父さん、そして家族のみなさんもきっとこのお母さんのような心境であったろうと改めて思いました。

そして私は、このお母さんの言われる「ふつう」というお言葉に捉われて生きてこなかったのだろうか。物事の本質が見えていたのかということを、今一度考えてみたいと思いました。

図書室 本紹介

中央公民館 図書室だより



Message Card

春は、出会いと別れの季節。わくわく感もあるけれど、不安な気持ちになる時もあります。そんな時に読んでほしい本を選んでみました。

『カモメに飛ぶことを教えた猫』



ルイス・セプルベダ 著／傑白水社
瀕死のカモメから卵を託された黒猫のゾルバ。「卵を食べないこと」「ヒナがかえるまで、卵のめんどろをみること」「ヒナに飛ぶことを教えること」。この3つの約束を守るために、愛情たつぷりに、仲間とともに協力し合つてヒナを育てるゾルバ。異なるもの同士が、互いの違いを認め合い、深い愛を学んでいく物語です。

『きみはほんとうにステキだね』



ティラノサウルスシリーズの3作目。「むかしむかし、おおむかし。あばれんぼうで、いじわるで、ずるくて、じぶんかってなきようりゅうがいました。ところがある日……誰かに愛されることで、優しくなれる。そしてまた、愛することでも、強い優しさが芽生える。そんな、メッセージの詰まった絵本です。

『LIFE 人間が知らない生き方』



麻生昌彦・篠原かをり 著／傑文響社
この本は「生き物」をテーマにしたビジネス書です。私たち人間は、高い知能を持っていますが、その生き方は極めて不安定。では、他の生き物たちは、どのような戦略で生き残ってきたのか？人間の知らない生き方から、「より人間らしい生き残り戦略」を学ぼう！という一冊です。

4月リサイクル体験受講者募集

申し込み先：クリーンパークファイブ
住所：長洲町大字名石浜42番地1 ☎0968・78・4433

日	時間	講座名	講師名	募集人員	募集期間	準備するもの
24日(火)	午前9時30分 ～午後3時	着物リフォーム 「羽織で作るベスト」	土山千代子氏	10人	電話受付	①羽織をほどこいたもの（または2m以上の布） ③筆記用具
					2日(月) 午前9時～ 13日(金) 午後4時	④50cmものさし
					希望者多数の場合の抽選日	⑤布に合わせたミシン糸
					18日(水) 午前10時	⑥弁当 ⑦材料費500円

受付方法

電話で受付をし、受講希望者が多い場合は抽選を行います。お気軽にお申込みください。